

平成30年度 特別推進研究 審査結果の所見

研究課題名	アイドリング状態の脳における情報処理メカニズム
研究代表者	井ノ口 馨（富山大学・大学院医学薬学研究部（医学）・教授）
研究期間	平成30年度～平成34年度
科学研究費委員会 審査・評価第一部会 における所見	<p>本研究は、睡眠や休息時などのアイドリング状態における、神経細胞集団の再現活動（リプレイ）や事前予測活動（プレプレイ）が記憶痕跡形成に果たす役割について、最先端の光学的・分子遺伝的手法及び数理モデル研究者との共同研究を通じて明らかにしようとする挑戦的研究である。</p> <p>応募者は、記憶研究の第一人者であり、近年では光遺伝学を用いて覚醒時における記憶痕跡形成過程について優れた研究成果を上げてきており、本研究計画の遂行によって、新しい学術領域を切り拓く独自性のある研究成果が期待できる。</p> <p>また、本研究を海馬以外の他の脳領域を含む記憶痕跡形成過程に展開していくために、新たな技術開発を並行して進展させることも期待したい。</p>